

授業科目	生命倫理				単位	2				
履修	選択	関連資格				ナンバリング	WE31517J			
開講年次	2年	開講時期	後期	該当DP	DP1-1 DP2-1 DP2-2 DP3-1 DP4-2 DP4-3					
担当教員	通山 久仁子									
授業概要	人を支援する専門職をめざすみなさんにとって、生老病死という「いのち」をめぐる、現代社会においてどのような課題が生じているのかを知り、これらの課題に直面した際の考え方や態度を養っておくことは重要です。本講義では特に人間の生死、「いのち」の始まりと終わりにおいて生じる諸問題をとりあげ、それを「だれか」という三人称ではなく、「わたし」という一人称の問題として考えることに重点を置きます。「いのち」をめぐる様々な言説や立場を理解し、グループ討議を通してそれぞれの価値観の違いに気づくことで、あらためて「生きる」ことを見つめなおし、「人間の尊厳」とは何かについて考えを深めていきます。									
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生命倫理とはなにかについて理解できる。 2 「いのち」の始まりをめぐる諸問題について、様々な視点をふまえたうえで、自分の考えを述べることができる。 3 「いのち」の終わりをめぐる諸問題について、様々な視点をふまえたうえで、自分の考えを述べることができる。 									
達成度評価										
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考		
総合評価割合	0	0	30	30	0	40	100			
知識・理解 (DP1-1)			10	10			20			
知識・理解 (DP1-2)										
知識・理解 (DP1-3)										
知識・理解 (DP1-4)										
思考・判断 (DP2-1)			10				10			
思考・判断 (DP2-2)			10	10			20			
関心・意欲 (DP3-1)						20	20			
関心・意欲 (DP3-2)										
態度 (DP4-1)										
態度 (DP4-2)				10		10	20			
態度 (DP4-3)						10	10			
技能・表現 (DP5-1)										
技能・表現 (DP5-2)										
技能・表現 (DP5-3)										
具体的な達成の目安										
理想的レベル					標準的なレベル					
生命倫理の課題について自ら考え、多様な視点をふまえて議論することができる。					生命倫理の課題について理解し、自分なりの考えをもつことができる。					
授業計画										
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)			予習・復習時間(分)	

1	オリエンテーション 生命倫理とは何かについて概説し、講義のねらいおよび講義の進め方について説明する。また受講のルールについて説明する。	講義	なし	
2	「いのち」の始まりはだれが決めるのか 1 人工妊娠中絶をめぐる母親と胎児の立場の対立について解説する。	講義 グループ討議	当該テーマについての予習・復習	各 30
3	「いのち」の始まりはだれが決めるのか 2 人工妊娠中絶をめぐる母親と胎児の立場の対立について考え、人の「いのち」はいつ始まるのかについて考える。	講義 グループ討議	当該テーマについての予習・復習	各 30
4	生殖補助医療を利用しますか？ 1 妊娠を助ける生殖補助医療をめぐる状況について解説する。	講義 グループ討議	当該テーマについての予習・復習	各 30
5	生殖補助医療を利用しますか？ 2 妊娠を助ける生殖補助医療をめぐる状況について考え、代理出産などの親子関係への影響について考える。	講義 グループ討議	当該テーマについての予習・復習	各 30
6	「いのち」の質はだれが決めるのか 1 出生前診断やデザイナーズ・ベビーをめぐる状況について解説する。	講義 グループ討議	当該テーマについての予習・復習	各 30
7	「いのち」の質はだれが決めるのか 2 出生前診断やデザイナーズ・ベビーをめぐる状況について考え、優生思想や社会における障害観について考える。	講義 グループ討議	当該テーマについての予習・復習	各 30
8	子どもの「いのち」はだれが決めるのか 1 侵襲性の高い医療技術の利用や子どもの臓器提供をめぐる状況について解説する。	講義 グループ討議	当該テーマについての予習・復習	各 30
9	子どもの「いのち」はだれが決めるのか 2 侵襲性の高い医療技術の利用や子どもの臓器提供をめぐる状況について考え、親の責任と子どもの権利の葛藤について考える。	講義 グループ討議	当該テーマについての予習・復習	各 30
10	「病い」を生きることは 1 「病む」ことや「介護される」ことへの社会のまなざしについて解説する。	講義 グループ討議	当該テーマについての予習・復習	各 30
11	「病い」を生きることは 2 「病む」ことや「介護される」ことへの社会のまなざしについて考え、介護される者の自己決定や社会の健康観について考える。	講義 グループ討議	当該テーマについての予習・復習	各 30
12	「いのち」の終わりはだれが決めるのか 1 安楽死と尊厳死、ホスピスケアなどの終末期医療をめぐる状況について解説する。	講義 グループ討議	当該テーマについての予習・復習	各 30
13	「いのち」の終わりはだれが決めるのか 2 安楽死と尊厳死、ホスピスケアなどの終末期医療をめぐる状況について考え、生命の質(QOL)とは何かについて考える。	講義 グループ討議	当該テーマについての予習・復習	各 30
14	「いのち」の期限を告知されたら？ 死を考えることを通して、生きがいや、自身にとってのよりよい生について考える。	講義 グループ討議	当該テーマについての予習・復習	各 30
15	まとめ 「いのち」の始まりと終わりをめぐる議論を通して、「人間の尊厳」とは何かについて考える。	講義 グループ討議	当該テーマについての予習・復習	各 30
16				

17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	生や死といった「いのち」をめぐる諸問題や他者への関心を広くもち、講義で提示されるテーマについて、自分自身で考えを深め、意見を積極的に述べる姿勢を持って参加してください。			
テキスト	講義の中で適宜紹介します。			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	庄司進一編著(2003)『生・老・病・死を考える 15章 実践・臨床人間学入門』朝日選書 小林亜津子(2011)『はじめて学ぶ生命倫理—「いのち」はだれが決めるのか』ちくまプリマー新書 玉井真理子・大谷いづみ編著(2011)『はじめて出会う生命倫理』有斐閣 教材として、必要に応じてDVD等を用います。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	生命倫理に関する報道に着目し、最新の倫理的課題について関心をもつようにしてください。また生命倫理に関するドキュメンタリーや映画などにも多く触れてみてください。			
達成度評価に関するコメント	生命倫理にかかわる課題には正解がありません。したがってこの講義では、自ら関心を持ち、自分自身で考え、その考えを表現できることに重点を置きます。授業内での発表、レポートの内容・提出状況、その他(グループ討議における参加態度に加え各種課題への取り組み状況など)によって評価します。			